

---

# JCN第3回全体ミーティング 発表資料

2014年 3月 29日

---

NPO法人コースター

共同代表理事 岩崎 大樹

# 4年目を迎えて

---

## ■復興に流れるお金の先細り(助成金、寄付金等)

→NPOも企業も支援活動の変化を迫られている

## ■被災地の光景の変化

→ガレキ撤去・インフラ復旧から、堤防・公営住宅・新しいまちづくりなど風景が変化

## ■「生活再建」の格差

→次のステップに進める人と、そうでない人の差が拡大

# 支援活動の変化と課題

---

- **活動の選択と整理が進み、住民・行政・企業・他団体との間で、より継続性や事業性の高い活動が求められる**

**→組織の基盤強化**

# 支援活動の変化と課題

---

## ■ どうやって？

- **活動への助成から、組織基盤への資金提供**  
(少額でも長期的に管理費や固定費に使える寄付など)
- **専門性の高い支援とのマッチング**  
(プラットフォーム: 結の場、イノベーション東北、WORK FOR 東北など  
個別には、ファンドレイズ、人事考課等のノウハウが求められてきている)
- **ナナメの関係の人的ネットワークづくり**  
(代表者・責任者同士のネットワークだけでなく、地元支援者と隣の自治体への国や企業からの出向者の交流など、「協働のノウハウ」を交換できる関係)

# 住民主体の復興への課題

---

## 住んでいた場所の光景の変化と、生活再建の格差

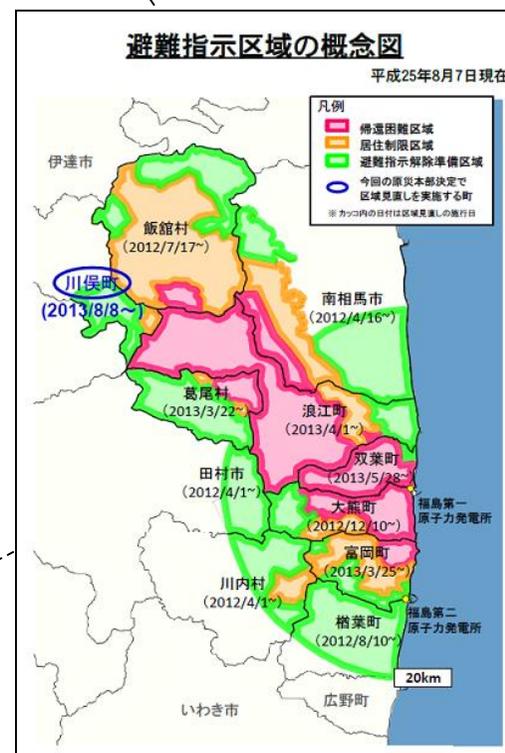
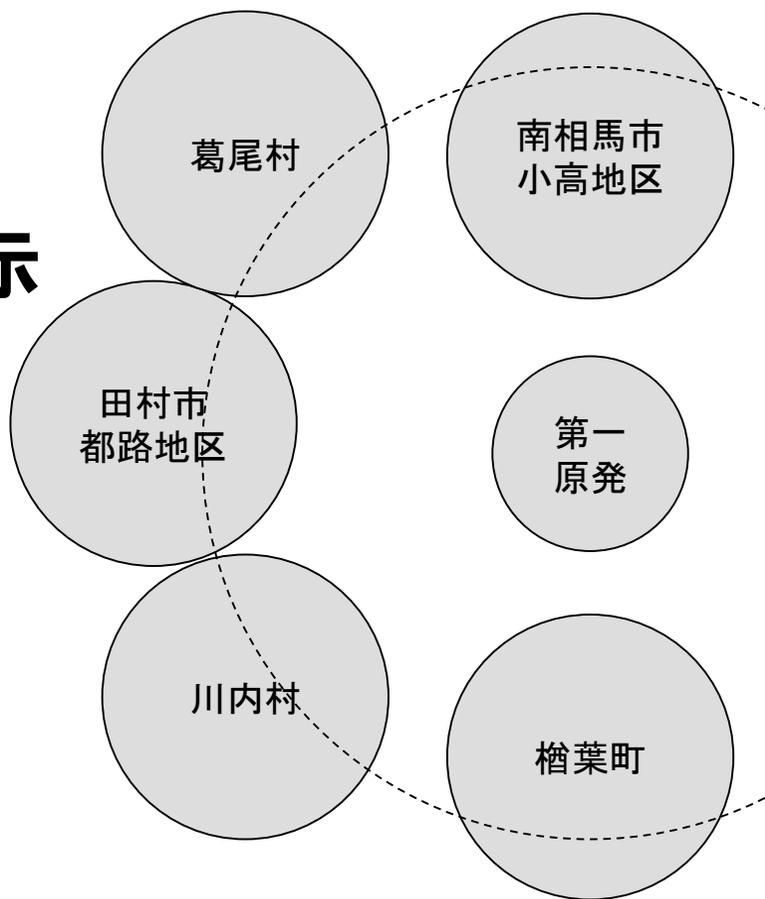
→自分で次のステップを目指せる人たち以外の人々に  
「取り残された」という感情を持たせない、息の長い関わり

## 被災地外からの支援に求めるもの

- 仮設や災害公営住宅と周辺地域のコミュニティの関わりを密にする仕掛けの企画・参加
- 復興支援員等の地域に入って住民をサポートする活動との連携・ボランティア参加

# 福島の前線「帰還」にどう寄り添うか

2014年4月1日の  
田村市都路地区での  
解除をはじめ、  
20km圏での避難指示  
解除の動きが活発化



# 福島の最前線「帰還」にどう寄り添うか

---

しかし、「帰還」しても・・・

## ■「アイデンティティ」で勝負できない

地元の食や自然といった、自分たちの誇りを積極的に活用できない

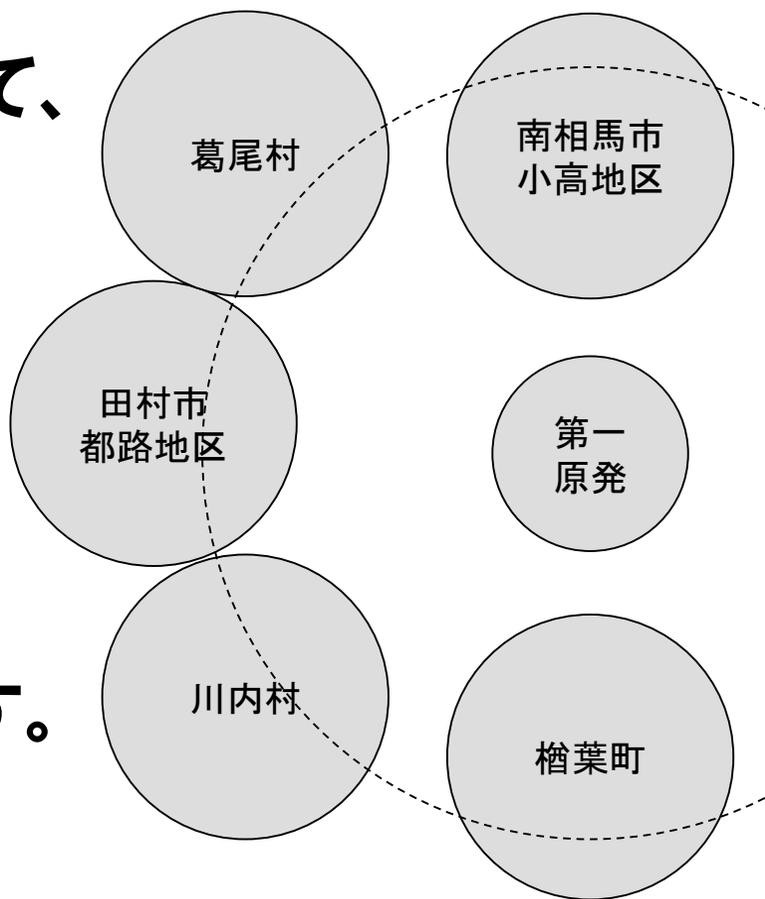
## ■外部支援への期待値の低さ

自分も住むことをためらう場所に、外部から人が来る・来てもらう発想を持ってない

この状況と意識が変わるには、「長い前段階」が必要。たくさんの方が現地まで来て、住民と息の長いコミュニケーションを取ってくれることが重要。

# 福島の前線「帰還」にどう寄り添うか

この地域には、  
今後5～10年に渡って、  
すぐに変化や事業が  
起こらないことを  
前提に現地に通り、  
現場の支援者と共に  
住民の「ためらい」に  
寄り添ってくれる  
外部の人々が必要です。





---

**ご清聴ありがとうございました**